

○副議長（小林信） 次に、2番 長井直人君の発言を許します。2番 長井直人君。

（2番 長井直人議員 一般質問席登壇）

○2番（長井直人） 議長の発言の許可をいただきましたので、私の一般質問に入らせていただきたいと思います。

特色ある学校教育を活かした若者定住のための村独自の雇用対策をということで質問させていただきます。

村長就任後3年が経過しようとしている今、就任前とどこがどのように変わったのか、目指すものはなんなのか未だ明確なビジョンが示されていないように感じております。昨年よりも多くの交流人口を呼んだ上小阿仁プロジェクトも、この交流人口を村の経済振興に結びつける政策が一向に見えず、訪れた方々やメディアを通して村の何をPRしたいのか、プロジェクトを活かした村の経済産業振興政策が連携されていない現状にあります。

村費を費やし計画、実行の段階から村民各種団体を巻き込みながら経済産業振興策を盛り込み、環境、観光、特産、物販、集落PRまで目配りができていれば、この2年間の経済効果は如何ほどか。波及効果はどうだったでしょうか。来年の国民文化祭秋田県開催まで視野に入れていたのであればなおさらであります。当初から指摘していただけに、この分野での取り組みの遅れは残念でなりません。

村の産業振興は商工会のみでは立ち行きません。農業においては未だ先行き不透明で不安は拭いきれない現状で、林業においては完全に後継者不足の状態であります。商業においては、なんとかほそぼそと経営維持している状態で、しかも年々減少傾向にあり、実のところそれほど経営状態がいいとは言えない状況であります。工業にいたっては相次ぐ災害で仕事はあるものの業者は減少しており、村の中での就業先としては減っている状況であります。商工会員の減少がこれらの現状をよりよく表していると言えます。

現在、村には雇用の場が少なく、特に若い世代の就職の場が公務員以外はほとんどなく、村外へ流出しています。村の職員でさえ採用の条件として村内に住所を置くとはしているものの採用後村外に住所を移す職員や住所を置きながらも実際には村外から通っている職員もおります。それぞれに理由はあろうかと思いますが、村民の流出もさることながら、村職員の流出も促進しているように感じております。これでは話になりません。しかも職場を有しながらの離村。まずは足元から村内への人材確保に努めていただきたいものであります。

そこで、村長に伺います。

村長就任後に、この3年間で雇用の場を創出するためにどのような取り組みをしてきましたか。また、今後、どのような取り組みをしていきますか。村の

現状の中で、今後、この村の超高齢化社会を誰がどう支え運営していくのか、近い将来の構想、ビジョンをどうもっていますか。村長が考える、現在の村にとっての最重要課題はなんですか。

これまで、村では小中併設になった子供たちに必要な教育を補うために、地域と連携した特色のある学校教育と補助事業チェンジあきたから始まった「本物体験未来創造プロジェクト」の実践的な体験型学習を推進し村の理解と協力のもと継続してきております。これは他の学校に誇れるすばらしい教育であり、もっとPRすべき実践的な政策になりうるものと考えます。私は、この取り組みに対して真摯に向き合い子供たちをご指導いただいている我が校の先生諸氏やご協力してくださっている地域の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいでありませぬ。

この議場にいる皆さんは、この学校での取り組みの進捗や成果についてご存知の方は果たして何人いらっしゃるでしょうか。まずは見てください。聴いてください。学年別にテーマを持って村内外で見聞きし、話をし、本物を体験しながら村と比較しながら、村を見つめなおし、村の現状を学習しながら村の将来について考える学習を積み重ねていきます。子供たちの中には村への愛着や希望が芽生え、村での就業や起業について考える子供や集落行事や郷土芸能、村の行事への興味やいろいろな面での後輩の指導まで意識する子供まで出てきております。そうした子供たちが村外、県外への進学や就職よりも村内もしくは村内からの就職を希望しています。現実には、ここ1、2年で数名でてきております。

村の教育の成果が出始めている中で、肝心の村がこうした意欲ある若者を受け入れる場を創る努力をしていないのでは、せっかくの特色のある学習が水の泡です。今の教育を続けることで益々こうした子供は増えると思われませぬ。まずは子供たちの学習に目や耳を傾け、その学習を活かしながら村の将来を担う若者の育成をしていかなければならぬと考えませぬ。村長はどう考えませぬか。

村の政策は多方面に渡り展開されませぬ。しかしながら、それらがバラバラでは意味がありません。それぞれが絡み合いながら相乗効果を生む展開が望ましいわけではありませぬが、そう簡単にはいきませぬ。しかしながら、村が展開している施策を活かすための土壌作りぐらいは並行して展開して欲しいものでせぬ。

村の現状を再度認識し、村を見つめ、村の子供たちの声に耳を傾け、若者を村に定住させるための村独自の雇用施策を検討立案し、雇用創出のための政策を早急に推し進めていただきたいのですが、如何でしょうか。お答え願ひませぬ。

○副議長（小林信） はい、答弁を許しませぬ。村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 長井議員のご質問にお答えしてまいりたいと思ひませぬ。

特色ある学校教育を活かした若者定住のための村独自の雇用政策をというご質問でございます。また、村長就任後、この3年間あまりで雇用の場を創出するために、どのような取り組みをしてきたか。その結果、また、これからどのような取り組みをしていくのかというようなご質問内容であったと思います。

雇用対策につきましては、いろいろ県の補助金を活用した緊急雇用創出等臨時対策基金事業、ふるさと雇用再生臨時対策基金事業により、事業所等への委託事業または村の直接雇用事業を実施してまいりました。主な内容は、スローツーリズム推進事業や入林規制事業、道路側溝浚渫事業、老人ホーム介護・看護補助員確保事業、農産加工品生産事業、特色ある教育活動事業、ICT活用事業、林産物利活用事業、特産物開発試作研究事業、働きながらホームヘルパー2級資格取得事業などで、平成23年度12事業で延べ34人、平成24年度7事業で延べ20人、平成25年度4事業延べ7人、3年間で延べ61人の雇用を創出しております。あくまでもこれは離職者が次の就職先を得るまでの緊急的な措置であり、平成25年で終了する予定ですが、この事業で資格を取得したケースもあり新たな雇用にもつながったというケースもございます。

また、村内事業所の経営基盤安定の支援施策として、上小阿仁村小規模事業者経営改善資金利子補給に関する要綱を制定し、日本政策金融公庫が行う小規模事業者経営改善資金の融資、マル経融資について、平成24年1月から平成28年12月までに償還する利子の半額を村が助成することにしてあります。平成25年11月までに累計で7件の申し込みがありました。

上小阿仁村個人事業者支援事業費補助金は、平成25年度1年間の期限付きで制定しましたが、地域特産品等を含む物産等の開発、販路開拓や新規顧客の取り込みに取り組む個人事業者等の支援を目的としています。11月までに2件の申請がありました。

雇用の創出につきましては、村が直接起業することは現実的ではないことから、企業誘致、企業支援、事業拡大支援、事業継承支援等が考えられますが、依然厳しい経済状況にあつて企業の誘致は難しいところがあります。国、県の事業を活用、参考にしながら現在ある雇用の確保を優先して取り組みたいと考えております。

また、企業誘致ではございませんが、冷凍山芋等を製造する株式会社東北センバ様が平成24年度から沖田面の空き施設を利用して業務を開始しており、現在パートとして12名の方が働いております。今後とも事業を行ってくださる業者があれば支援をしていきたいと思っております。なかなか村には工業団地等、企業を呼び込むそういう施設も今のところございません。前に一度工芸センターを活用した企業などもございましたけれども、なかなか事業決定するまでには至っていないというのが現状であります。

若者の支援、若者の雇用の場というご質問でございます。私は、雇用の場というのを、どういう形にとらえるかと、これが経済的な面からとらえれば雇用の場ですけれども、生活の場からとらえれば暮らしなのです。暮らしをどうしていくか。では村の暮らしはどうなるのか。昔は、先ほどの萩野議員のご質問の中にありました営林署において700人、800人の雇用があった。その当時、それが必要であったわけです。木材を切り出して、そして、売り払っていくためにはそれだけの雇用がなければ、営林署自体が存続しえなかった。ところが今はそういう時代ではないわけです。営林署でも、ほとんど外部委託、そういうふうな状況になっておまして、村でも段々近代化がされてきて農業においても昔は多くの方が農業に携わってきた。田植えするにも結いがあつて隣り近所皆お手伝いしてもらわなければ田植えができなかった。ところが今は立派な農機具があります。田植機械もあります。そういったものでほとんど家族単位でできる。10町歩も20町歩近いところもある程度忙しい時に人を集めれば、家族単位でできる時代になってきている。そういった中で、では、この地域でどんな雇用が必要になるのか。震災があつた福島県など震災のあつた地域では、火力発電、原子力発電があります。そこに多くの若い人方の雇用が生まれておりました。しかし、災害が起きてその雇用というのが全部壊れてしまう。地域も壊れています。ふるさとに帰れないそういう方々がたくさんおるわけです。

つまり、内部からの雇用の場の創出というのは、私は一番大事なことだと。外から誘致企業が来ても自分方の都合が悪くなればすぐに撤退するわけです。地域のことなど考えてくれない。そうなりますと今県内でもたくさんあるわけですけれども、そういう地域もあるわけですけれども、どういうふうにして地域から産業的な構造を見つけ出して、そして若者の雇用につなげていくかということが、一番知恵のたしどころであり、そこに我が村の若者定住のひとつのヒントがあるのでないのかなと考えているわけでございます。

議員の皆様も多分いろいろな方がたとお話をしていると思うし、そういった面ではいろんな考え方をお持ちになっていると思います。私は、農業であっても、商業であっても、それから林業であっても、さきほど申しました後継者づくりは絶対必要だと思っていますので、そういった面でどういう方法があるのか。やはり自分の構想の中にはある程度あるのですけれども、でも、それは住民の方々とかいろんな人の考え方と一致して初めてスタートができると、私はそう思っておりますので、そういった面でまだまだいろんな考え方を組み合わせながら雇用の場の創出というのを考えていきたいなと考えております。

この超高齢化社会、上小阿仁の場合は本当に高齢化が進んでおります。46%と言われているぐらい進んでおります。しかしながら、この高齢化社会、我々は超高齢化社会を今経験しているのです。これから経験するのはなく今高齢化

社会を我々は営んでいるという、そういう状況にあるわけです。ですから、今困っていることを解決すれば超高齢化社会というのは十分に乗り切っていける。これは都会ではなかなか難しいことかもしれません。隣り近所、顔もあわせない。しかし、我々の地域においては、隣り近所がもう昔からの知り合いであり、困っていれば助けるというのが、我々の地域の良さだと思います。それをもっともっと拡充して、それを生かしていくということが、超高齢化社会を運営していく一つの道ではないのかなと。私は誰がどうやって支えていくというふうな気持ちを持ちは皆で支え合う、もちろん行政はできることは行政でやっていくし、また集落やそういうところでできるものは集落にお願いをしていくと、そういった形で高齢化社会を乗り越えていければなと思っております。

一番問題なのが、まず、子供たちのこれからの、長井議員がおっしゃっていた体験とか、そういったものをいかしながら、村にどうやって定住をさせていくのかというご質問がございました。村を知る、村を他町村へ行って見ると、こういったことでは私も発表会とか、そういった時に新聞等で一生懸命子供たちが書いているものを見たりしております。多分何も子供たちのやっていることを見ないということでは、議員の皆さんたちも発表会とか生涯学習センターのそういったところに展示されているものを眺めていると思います。しかし、なかなか深く考えるということができないのも事実だなというふうに、今自分でも反省をしているところでございます。

特色ある教育、これはお金もかかるわけですがけれども、先生方も、これは上小阿仁村にとって生徒のために大変役立っているんだということで、これを継続させていただいておりますので、まだまだ継続できるものだと思いますし、村の子供たちが大きな目をもって村を見つめなおしていただければありがたいなと思っております。

行政は、雇用の場を自分で作っていくということになりますと、競争力の問題が発生してまいります。行政は民間と違いまして競争のない機関でございます。サービス機関ということで、サービスの雇用であれば、ご提案いただければ、もしできるものであればそういった面で生かしていければなと思っております。野外試作センターに研修などの施設もございますし、また、冬場になれば除雪なんかも民間の力を借りながら、そしてまた個人の力を借りながら、そして村では運転業務なども免許証のある方々にお願いをしながら、できるだけ雇用を満遍なくしながらやっているというつもりでおります。全然間に合っているということではないわけですがけれども、そういった面では少しでも村の雇用を増やしていければと思っております。

それから、上小阿仁プロジェクトの関係にも触れておられました。交流人口が、たくさん来てくれるのはいいのですけれども、なかなか議員のおっしゃる

ように経済活動、お金が出て行く割に村にそれだけの収益がないのではないのかなど、費用対効果、こういうお話でございます。もちろん、費用対効果、それも大事ですけれども、こういった事業をやることによって子供たちが伝統芸能、そういったものにも熱心に取り組んでもらうことができましたし、子供たちが熱心なるということは、地域の指導される方々にとっても大変指導しがいのあるそういった地域づくり、自分の足もとをきちっと固める力にもなると思っております。

経済活動は、1人、2人の力でなかなかできません。皆がその気になって、農業であれば農業の人、商業であれば商業の人、そういった方々がいろんな力を出していただければ、私は、一番最初の年は、飛び地開催ということで相手もありましたので、商店みたいに物売りはちょっとご遠慮願いたいという飛び地開催地の本家筋のお話もありましたので、なかなかそれはできなかったわけですけれども、今年度は飛び地開催でもないし、村の独自の上小阿仁プロジェクトということで、商業や売店、物を売りたい人がいれば来てもらっても結構ですという話をさせていただきました。秋田からグラードさんは来て頑張ってくれています。秋田から来て採算はとれるかなと思うけれども、それでもそういうふうに地域に来て、このプロジェクトに応援をいただいている業者もおりますので、村の人であればもっと経済的にも楽に取り組めるのではないのかなという思いももっております。

上小阿仁プロジェクトがどんな目的をもっているかと言いますのは、私になった当時、上小阿仁村というのはインターネットで、とにかく医師関係の問題が取り上げておられました。そしてまた、私も医療についてのその医師確保に悩殺されてきたと言ってもいいと思います。今でも柳先生が安心していることによって安心してできるのだなど、これが村の住民の命を守るという根本的な根っ子がきちっとしなければ、どんな政策をやっても、私はブレてしまうと思います。やはり人が生きていく、その根本的なところをきちっとしてそれから芽が延びていって、芽が出て、花が咲くという形がベストでないのかなど、たくさん物をつくり、そして雇用が生まれた、これが生まれたと言っても、根っ子がきちっとなっていないとすぐに壊れてしまう。幸いに診療所の方は何とか今のところ先生を信用しながら診療所にお年寄が行っているというだけでも、私は何もしなかったと言われても、それが最高ではないのかなど、自分なりに考えております。

以上でございます。

○副議長（小林信） 2番、長井直人君。

○2番（長井直人） ご答弁いただきました。

答弁をまとめながらお話しますので、あっちこっちへいったりするかもしれ

ませんが、その点はよろしく願いいたします。まず初めに上小阿仁プロジェクトについてもふれていただきましたが、これについては、私の場合は質問の中で、内容的に経済効果云々ということでもふれさせていただいておりますので、この点についての、今の村長のご答弁については、次の齊藤議員が質問されておりますので、齊藤議員にお任せしたいと思います。また、村長からは、まずは最初の質問、村長就任後のこの3年間の取り組みということでご答弁いただきましたが、根本的に一番大事な村の最重要課題はというところの部分にはふれていただかなかったので、とっても残念な部分があるのですが、私の結論から申し上げれば、村の最重要課題は雇用の場の創出、これが今の村の最重要課題ではないかと考えております。

それをもとにして再度ご質問させていただきますが、これまでの取り組み等をあげて説明をいただきました。確かに緊急雇用また直接雇用等で65名の方が雇用されているということで、本年度をもって、その雇用も終了するというところで、それについては、今後の対策をどのように考えているか、そういった部分もふれていただけたらと思ったのですが、そういった部分はなかったように感じました。そしてまた、村の直接起業は好ましくないということでお話をいただきました。今後、国・県の事業を参考にしながら、現在、ある制度をいかして雇用していきたいということでお話をいただきました。ただ、私的には、村長が先ほど萩野議員の質問にも農林業、また商業についても後継者育成が大事である。どういう方法があるのか、どういう意見があるのか、年明けアンケートを行って調査をしていきたいということでお話をいただいておりますが、こういった意見を聞きますと、私としては、取り組みとして遅いのではないかといいふうに感じるころであります。

若者の雇用の場についても、経済的にはやはり雇用が大事、しかしながら生活面からすれば暮らし、村の暮らしをどうするかというようなことでふれていただきましたが、では、村長が選挙に出た時に公約で掲げたスクラム、このスクラムの実現のために、この3年間どのような取り組みをされてきたのか。そういった取り組みをしていけば、村の暮らしも良くなってきているはずであります。実際に今はどうでしょうか。悪くなっているとは申しません。しかしながら、現実には今の状況を苦慮している方々が多いというのは現実ではないでしょうか。これは生活面という、その言葉にとらわれることなく、生活をしていく上での不安や、そういった現状すべてにおいての意味ではありますが、そうした中で、現在の暮らしをよくしたいと思うのであれば、もっと現状のそういった悩みや苦しみの部分を救えるような、また配慮できるような政策を展開していくべきではないのかと感じております。

例えとして、林業を例にして挙げておられましたが、昔はそういう時代であ

ったと、今はそういう時代ではない、従事者もそこまで必要ない。忙しい時は人さえ集めれば家族単位で出来るということでお話をいただきました。しかし、現在の村の林、村の財産である林を見てみますと、どういった状況か。非常に荒れていると私は感じております。村有林のみにかかわらず特に民有林においては先ほどの質問にもあったように、やはり手をかけられずに財産にならないものに手をかけられずに、そのまま放置されている林が多分にあると感じております。そういった部分を村としてどのように取り組んでいくのかという部分を深く掘り下げて考えていかなければならないのではないのかなと思います。現状は確かにそのとおりかもしれません。しかし、村の財産である林、そして村の基幹産業である林業をどう維持し継続していくか、そういった部分を、今の現状を払拭するような形で新たな取り組みをしていくことこそが重要なのではないのかなと感じております。細部については質問外ですのでふれませんが、そういった部分も含めて再度検討していただきたいと思っております。

これまでの取り組みを簡単に挙げさせていただきまして、その状況をお話させていただきますが、特産品の開発、これについては不良であると私は思っております。継続雇用また改良、計画生産、計画販売等の不備、村のPR、協力不足等があげられます。商品券、これも行っておりましたが、これも不良、廃止されておりますが、商工会任せ、また販促利用促進、改良等そういった部分で不足したのではないのかなと思います。

野外生産試作センター、村長からも話がありましたが、取り組みは低調であると判断します。計画は確かに書類上は充実した説明を受けております。しかしながら、年間を通して状況を見てみますとその取り組み内容に物足りなさを覚えるのは私だけでしょうか。また、もっと生産性の高い目標を掲げて取り組むべきではないのかなと感じております。

雇用の場の確保、これについては村長もふれておりますが、これについても不備であるというふうに判断します。緊急雇用での短期雇用の入替えのみにとどまりもっと継続性のあるもの、また中長期にわたって経済活性化を促進するような雇用の創出を望みたいものであります。起業・新規事業また事業の拡張、誘致企業、これについても不良であると判断します。村内事業者、これについては大変疲弊していると思っております。農家については先ほどもふれましたが、先行き不透明ということで、不安を覚えております。もっといろいろな国策または県の政策に対して、村長としての考えを明確に示すべき、伝えるべきと考えます。TPPの反対、減反政策反対等、そういった意思表示を明確にすべきではないかと考えます。

林業においては後継者不足、これに尽きると思っております。こういった部分等、やはりまだまだ取り組み不足ではないのかなと感じておりますので、やはり雇

用の創出に向けてもっともっと細やかな取り組みをお願いしたいと思います。また、今後のビジョンについては村長からもご回答をいただいております。どういふふうに地域から若者の仕事の間を見出して、雇用の間をつくっていくのかということて検討していかなければならないというお話をいただきました。

今困っていることが解決していければ、この超高齢化社会を乗り切っていけるとおっしゃっておりました。果たして高齢者の方々が、今困っていることが解決されているのでしょうか。これから冬を迎える雪の問題についてもそうてあります。村としては除排雪に補助をしておりますが、これについても非常に高齢者には使い勝手の悪いものとなっております。議会からも何度となく指摘をしておりますが、今回も補正で上がっておりますが、改善がなかなか見られていない現状であります。このような形で答弁をいただいているのであればもっと高齢者がわかりやすい、また利用しやすい政策を展開していただきたい。また実際に困っていることはもっと多方面にわたって考えられます。そういった部分についても配慮して、また検討をして政策展開していくことこそが、この村長の答弁に対する答えではないのかと感じておりますので、そういった部分も合わせて今後検討していただければと感じております。

またもうひとつは、集落でできることは集落に任せて、細かなところまで目の届く政策をしていきたいということだと思っております。これについても何もかも集落にまかされても大変困ると思っております。確かに集落でできることの方が多いいと思っております。住民に村よりも密接に係わり近い存在である集落の方がより細かな対応も可能であろうと考えます。しかしながら、やはり、集落でできること、村が先にたってやらなければならないことがありますので、そういった部分にも村のリーダーシップが必要であると考えます。集落に任せることがあってもやはりそういった部分の配慮が必要であろうと考えますので、そういった部分も再度検討していただきましてし、集落と協力をして進めていただければと感じるところであります。

また、今後のビジョンについても、私の考察を付け加えさせていただければ、杉風荘の民営化、これについては一般質問でも何名かの方が、何回かにわたって質問をしています。これについても先行きが不透明で、今年度中の検討、来年度の移行ということてお話しはいただいておりますが、現状のところ無理ではないかと考えております。雇用の間の創出、政策が全く見えません。考え、構想も不透明であると感じております。経済活性化策、産業振興策これについても具体的施策がみえません。高齢者の見守り生活支援や福祉の充実、生活必需品、日用品の購入の間の確保、降雪対策、不安は耐えない現状にあります。もっともこうした部分についての配慮が必要ではないのかなと思っております。集落機能の低下、後継者、若者不足ということて、これについても現状のままでは村

の活性化は非常に難しい現状にあらうと思います。役場だけで村全体の村民の面倒を見れるのか。これは無理に等しいと思います。このままでは近い将来村がなくなってしまう。集落を支えるのも若者であります。村を支えるのも若者であると思います。こういった部分への配慮、また計画性をもって取り組みをしていくべきと考えています。

そもそも雇用の創出とは、企業誘致、事業所の新設ばかりが雇用の創出ではありません。雇用の創出とは就労の機会を作り出すことであり、新規成長産業の振興や操業、起業支援、ワークシェアリングの促進や経済支援策等の実施と間接的な支援も含まれるわけであります。よって行政政策として取り組める部分や行政施策として実行できる部分はもっと多分にあると考えます。こうした部分をふまえてもっと多方面にわたる計画または実施を期待したいと思うのですが、如何でしょうか。

○副議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 雇用対策、議員の私的な判断の部分と満足のいかない部分というのを聞かせていただきました。なるほど一人ひとり考え方は相違があると思いますし、これだから満足しているというわけでは、私の方で満足しているというわけでもございません。大変高齢化が進んでいる中で、問題が山積しているというお話もございました。

若者定住、若者が大事だと、それは言われなくてもこれからの時代は、若い人が育っていかなければ村は成り立っていかない。ただ、骨ある若者にしなければいけない、ただの若者だけでは私はだめだと思います。やはり地域を思い、親を思い、集落を思い、そうした骨のある若者が育っていかなければだめだと。そして、そういうものをつくるのはどこかと、私は最終的には家族になる。家庭なのです。家族、家庭でなければ若者をおくこともできないし育てることもできないし、人口を増やすこともできないではありませんか。村が人口を増やすことはできません。家族があつて家族が人口を増やしていくのです。それが広がって行って集落となり村となり、県となり国となって、私はそう思います。だから何もしなくてもいいというわけではないわけですがけれども、しかし、根本的に家族を大事にしていけば、子育てもできるし、親の面倒もみれるし、地域のこともできていく。そういう若い人方をどうやって、この地域に残し、ただ仕事を与えれば若い人が暮らせる。しかし、ではその人方が、仕事を与えたから地域の行事に加わってくれるのか。親の面倒をきちっと見てくれるのか。子育てがちゃんとできるのか。私は、やはり家族がそういった面で一番大事なことはないのかな、カギを握るのは家族ではないかなと、自分はそういう考えをもっております。ただそうだから年配の人方が困った時に手を差し伸べな

いということではございません。村でできること、そしてまたやれること、その範囲というのはやはり決まっていると思います。どこまでも手を伸ばしていけば、食べれる人にスプーンをもって行って口をあけさせてご飯を食べさせるというのが行政でないと思います。それぞれがそれぞれの立場でそれぞれの活躍の場というのが与えられていると思うのです。ですから、その活躍の場に、そこで不足なことがあれば村が支援していくという基本的な考え方にたって、村政運営をしていくということでございます。ご質問の答えになっているのか、ちょっとわかりませんが、再々質問になれば、それもうけたまわりたいと思います。

○副議長（小林信） 2番、長井直人君。

○2番（長井直人） ご答弁いただきました。

特に家庭、家族が大事であるということで強くおっしゃっていただきましたが、確かにそのとおりであろうとは思いますが、しかしながら、今現在、村では村長のおっしゃるような村を考える、地域のことを考える、また家族のことを考えられる若者づくりのための教育を実践している状態であります。そうした中でそうした子供たちが実際に出てきている現状であります。県外に行かず、村外に行かず村に戻ってきて、また村から通えるところで就業したいと、そういう気持ちを持った子供たちが出てきております。これは村の取り組みの成果だと私は感じております。また、皆さんも子供たちの発表をぜひ聞いてください。これから多分こういった子供たちは増えてくると思います。そういった教育を村では学校でしております。これは自負していると思います。しかしながら、その教育を生かす施策が村では立ち遅れている。

秋田県ではAターンということで相談窓口を置き、就業に努めております。しかし村ではどうでしょうか。村で働きたい方、また離職をされた方、就職を希望している方、こういった方々への相談窓口は、どこまでどのように開かれているのか、どこまで細かく対応されているのか、Kターンとは申しませんが、上小阿仁に就業を希望する方々へのもっと細かな配慮または支援を展開していただきたい。また、支援をしても働く場がなければ、これは雇用ができません。やはり村の現状を把握し事業者の現状を把握しながら、就業者の拡大もしくは事業の拡大、そういった経済成長を手助けしてやることこそが、村の政策または村の仕事ではないでしょうか。

新しい事業所を持つてくることは非常に難しいと考えます。また誘致企業はなおさらであります。ではこういった中で村として何ができるのか。村長は、村独自で直接起業は難しいとおっしゃいましたが、村民を使いながら村で起業をして展開していくことも、今後、こういった状況では視野に入れていかなければならないのではないかと私は考えます。もちろん、その業種または職種に

については検討していく余地があるかと思いますが、村の基幹産業を考えれば自ずと方向性は見えてくると思いますので、今後の課題として早期に取り組んでいかなければ村として手遅れになると考えますので、やはり多方面に渡る長期の構想または展開を期待したいと考えます。

先ほどの村長からの答弁にもありましたが、学校教育は予算がつけられるまで継続していただきたいというのは私も同じ意見でありますので、こうした成果のある教育をもっと生かして、今後の村のために生かしていただければと思いますので、ぜひともよろしくお願いします。

最後に、今一度確認したいのですが、村長の今の村の最重要課題は何だと思われませんか。それだけお答え願います。よろしく願います。

○副議長（小林信） 再々質問になりますので、手短にお願いします。残り時間5分切っています。はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 村の最重要課題ということに再度ご質問されました。ひとつに限って最重要課題、私、議員の時にいつも言っていたのが若者の雇用であります。議員の時には言ったけれども村長になったら何も言わないと、一般質問の私のを確かめてみれば多分わかると思うのですけれども、村にとって若い人方が必要だと、若い人の雇用の場を、歴代の村長につくっていただきたいという質問を何度もしてきました。私も最重要課題は若い人だところ思っております。しかし、現実論として、先ほども申しましたけれども、どういう若者を、この地域で育てていくかと。これはやっぱり林業で育てていくのか、農業で育てていくのか、それから福祉の分野で育てていくのか、いろいろあると思います。それはどういう方法がいいのか。後継者として残って企業へ就職してもらって、その人方に支援をおくっていくのか。それとも農業についてもいろいろな農業の支援の仕方と国の制度もあるようであります。それにもっと柔軟に村独自の施策として、後継者としてちゃんと年間いくら就労すればどれくらいの支援をすると、だから集落に残って、この地域の田んぼを頑張ってくれと、山に対してもそういった取り組みを支援しながらやっていくのだと、そういう支援の仕方しか、私は今のところは考えられないわけです。民間企業があればいいわけです。山にしても昔の直接の労働班みたいなところがあればいいわけですがけれども、残念ながらそういったところも、森林組合との合併によって失われてしまった。今現在、民間でやれるところがなかなか見つからないというのが現状であります。

民間の企業で、私の方でそういった若い人を雇用して村で支援してくれるのであれば頑張って雇用してしてもいいよというふうな取り組みがあれば支援してまいりたいと思うし、農家においても、やはりちゃんと農業法人を立ち上

げてもらいたいし、あとで齊藤議員の質問に答えることになると思うのですけれども、集落営農だけではだめなんだと、やっぱりきちっと農業法人を立ち上げて、その中にきちっとした雇用がうまれるのではないですか。そういうものを支援していくというのもひとつの方法でないのかと思います。ですから、多方面で支援策は展開されると思うし、でも支援するためにはどっかを削ずっていかなければいけない。何を削るかです。両方に支援だけが充実していけば村の財政は破綻します。では何を削っていけばいいのか、そのことも合わせて考えていかなければいけないと思いますので、思案している最中ですが、今後の取り組みを皆さんと相談をしながら理解を得るような取り組みができればと思っております。

まず最重要課題は、若者をいかにしてこの地域においていくかということでございますので、その点は、私の意見として思っていたいただければありがたいと思います。

○副議長（小林信） 通告時間、達しておりますが、2番、長井君。

○2番（長井直人） 以上で私の一般質問を終らせていただきます。ありがとうございます。